

社会の諸問題を 自分自身の身近な問題として 考えよう!



「高齢者問題について」 浅口市立鴨方中学校 3年 北村 桃か

私は2年生の時に、職場体験で、病院に行き、高齢者の方の介護のお手伝いをさせてもらいました。手伝いはおもに食事介助、入浴介助、シーツ交換などでした。体験を通して、一番に感じたことは仕事の多さです。私は看護師の方がやっているうちの一部しか手伝わせてはもらっていませんが、看護師の方は休むことなく仕事をこなしており、体力も必要だと言うことが分かりました。この体験で介護の大変さを知り、それと同時に高齢者の周りで起きている問題に興味を持ちました。そして実際に調べてみたところ、様々な問題があることを知りました。その中でも特に印象に残った問題について話します。

1つ目は、福祉についての問題です。私の調べた記事では、「骨折などをした老人がリハビリのために介護老人保健施設に入所しても数か月で施設を出ていくように告げられた。でも一人で暮らすことは不安で入居できそうな施設を探してもひとり身の老人が利用できそうな特別養護老人ホームはどこでも順番待ちで、いつ空きが出るか分からない。また、民間の有料老人ホームは月20万円以上と高額のところばかりで、年金で暮らす老人には手が出せない状況だった。」という内容でした。今、このようにして行き場を失う高齢者が増えているそうです。比較的少ない負担で長期利用が可能な特別養護老人ホームに入りたくても入ることができない老人を「待機老人」と言います。現在、特別養護老人ホームへの入所申込者は約52万人もいるそうです。この数字は、今問題になっている待機児童数をはるかに上回る数字で、とても深刻な問題です。このように老人ホームを利用したい高齢者に対して老人ホームの数が足りていないのが現状です。では、老人ホームの数を増やせばいいのではないのでしょうか。しかし、そうすると新たな問題が生まれてきます。それは介護福祉士の数が足りなくなるということです。

そもそも、現在の介護福祉士の労働環境が私が職場体験で感じたように仕事の量が多く、重労働ばかりです。それなのに、残業代が払われなかったり、休みの日を減らされたりと不当な扱いを受けています。介護福祉士の扱いがこのままだと介護福祉士になりたい人が減り、人数が少ないまま、一人が請け負う仕事が増えて、いつか大きなミスが起きてもおかしくないと思います。そうならないためにも、介護福祉士は人の命に関わり、支えてくれる立派な仕事だということを、もっとたくさんの人に知ってもらうことが大切だと思います。それによって、例えば、介護福祉士の労働環境が改善され、介護福祉士になりたい人が増えれば、老人ホームの数も増えると考えられます。そして「待機老人」の数が減るなど問題が少しでも減るのではないのでしょうか。

これからも高齢化は進みます。高齢者にとって、今の暮らしは不便なことの方が多いと思います。しかし、私たちはまだ若いから関係ないと思うのではなく、私たちにできることは、少しでもやっていきたいです。そして、高齢者がもっと暮らしやすい、優しい社会になるといいなと思います。

最後に、私はこのような問題が起きていることを初めて知りました。これからも高齢者問題に関心を持ち続け、将来は介護関係の仕事につき、社会に貢献していきたいです。

「戦争と平和について」 浅口市立鴨方中学校 3年 西村 桃花



「戦争」とは、何なのでしょう。

学校の授業での勉強や、テレビのニュースなどで、私よりずっと、小さい子が銃を抱えている映像を見たことがあります。あんなに小さな子が戦場で戦っていることにとっても驚き、悲しくなりました。何の罪もない子供たちが巻き込まれ戦争で命を奪われていくことは「あってはいけないこと」だと思いました。でも、日本という平和な国に生まれた私は、戦争は遠い国でおきている出来事で、他人事のように思っていました。修学旅行で行った沖縄での、ひめゆりの塔についてのお話や、ガマ体験はとても貴重で、語り部さんの教えてくださった内容は、怖くて、かわいそうで悲しいお話でした。ガマの中は想像していたよりもはるかに真っ暗で、また広くてびっくりしました。私達は懐中電灯の明かりを消して黙とうをしました。その時に声を出したら米軍に見つかるからと、殺された赤ちゃんの事を思い「私達はあなた達に分までしっかりと生きて戦争のない明るい世界を作るからね」と誓いました。

わたしのひいおじいちゃんは戦争を経験していました。でも私が生まれる前に亡くなったので直接聞いた話ではないけれど、祖母に教えてもらった話は衝撃的でした。ひいおじいちゃんは戦争で満州へ行っていたそうです。

銃撃戦になった際、敵に囲まれて背中から撃たれました。幸い貫通せず弾が止まっていたので生き延びられたと聞きました。傷を負った人たちは物のようにトラックに乗せられ、運ばれたり、血だらけの包帯姿の人や、腕のない人、隣に座っていた人に気が付いたら死んでいたりと聞いています。人を撃たないと自分が殺されるという状況は想像ができません。今の時代では考えられないような出来事でした。「戦争はしちゃいけん」と、口ぐせのように言っていた、ひいおじいちゃんは多くを語らなかつたけど、戦争はとても辛かったそうです。

今、日本は平和だけど過去には戦争をしていて、これから先、自分達の身に迫る可能性が「ゼロ」では無いということをお忘れは出来ないと思います。

では、「平和」とは何なのでしょう。ある資料に、「戦争という言葉は、銃や戦車、兵士、血を流している人などと、具体的なイメージが出てくるけど、平和という言葉は、とても抽象的で、何を意味するのかが分かりにくい、という問題がある」と、書かれていました。私が思う平和は、争いや人を傷つけることがなく、死の恐怖でおびえる事がなく、世界の全ての人達が「幸せ」と言える毎日を送れる事だと思います。その為には一人ひとりが相手を思いやり、お互いの意見を傾けることが出来たら平和を保つことが出来ると思います。平和について深く考えると、戦争は2度と、絶対に繰り返してはいけないと思いました。その為には、戦争の恐ろしさ、悲しさを知ることが大切だと思います。戦争を経験し、その恐ろしさを私達に話してくれる人達はどんどん年をとっていかれます。直接話が聞けなくなる日が来るので、私は聞いた話は絶対に忘れません。

将来、大人になった時に自分の子供達に戦争がどれだけ人を傷つけて、多くの命が奪われてきたということと、平和の大切さについて、伝えていこうと思います。

浅口中学生弁論大会に本校代表として参加した3年生2人の弁論を掲載しました。体験を基に大きな社会問題を考察し、自分の考えをしっかりと主張しています。是非読んでください。

★11月の目標は「思いやり・温かい心」

- ◇まわりの誰かを 傷つけてはいませんか。
- ◇困っている人の手助けが できていますか。
- ◇温かい気持ちになって 考えられていますか。
- ◇温かい声かけが できていますか。